R18
Contents include

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

Younger brother who is highly skilled in magic
Older brother of the dropout

もうの
mouno

R18
Contents include

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

Younger brother who is highly talented in magic
Older brother of the dropout

もうの
Mouno

Contents

第一話・・・5

第二話・・・15

第三話・・・25

第四話・・・35

第五話・・・47

第六話・・・61

第七話・・・77

第八話・・・83

第九話・・・115

あとがき・・・132

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄の話

第一話

たった一日で俺の居場所はなくなった

[redacted]様が魔力を発現されたぞ！

ギルバート様より魔力が強い…！

[redacted]様が次期当主だ!!

兄様…

弟より劣った兄は

あまりにも呆気なく家督を奪われ

そして

笑ってしまう程
落ちぶれた
すごいなあ
なんだあの魔力
やっぱり生徒会のエリート様は違うねえ
同じ生徒会の王太子からも一目置かれているとか
あれってギルの弟なんだろ？
片方だけ血の繋がった、な
今はもう関係ねぇよ
この国では魔力の強さが権力に直結する
たとえ弟でも妾の子でも
魔力が強ければそちらが家督を継ぐ

思い描いていた未来は遥か彼方に

俺は将来この家を継いで領地を豊かにするんだ！

お前も手伝ってくれよ！

うんっ

兄さまのこと全力で支えるから！

—なんて約束

もう覚えてねえだろうな…

だけどもう大丈夫

いたいた

次の合同訓練の計画立てようぜ！

俺にはこいつらがいるから

本当に俺達でもエリート様に勝てるのかよ？

俺の計画で悪だくみが失敗したことあったか？

俺達落ちこぼれでもやれるって

エリート様達を見返してやろうぜ！

俺にはもう居場所がある

そこを守っていくだけだ

兄様

お前…

俺に話かけんじゃねえよ

なぜ？

親父に言われてるだろ、お前も

なんで父上のいうことを聞かないといけないの？

そりゃ当主の命だからだろ

当主の命は絶対聞かないといけないものなの？

—ああ当主の命は絶対だ

ちょっ
ぐい
何すんだよ！
どこに行く気だ!!
ズル
ズル
ズル
バン
ドサッ
ぐっ…
ギシッ…
当主の命令は絶対…
そうだよね？
何だコイツ雰囲気が…
—なら

現当主の僕の命にも

兄様は聞かないといけないはずだ

は…？

代替わりしたんだよ

知らなかった？

代替わりってまだそんな歳じゃっ…

だって

僕と兄様の仲を引き裂こうとしたんだもの

当然の報いだよね

だから兄様

誰とも話すな
誰とも笑いかけるな
つるんでいる奴らとの縁を切れ
僕だけに笑いかけろ
僕のそばにいろ
未来永劫僕から離れることを許さない

命令…
守れるよね…？

あなたはもう僕のモノだ
ギルバート

ギルバート・レッドグレイヴ
Gilbert Redgrave

レッドグレイヴ侯爵家嫡男。
しかし魔力量が少なく、当主の座を弟に奪われる。
10歳の頃に全寮制の学園へ入れられて以来
家に帰っていない。
弟に尋常でないほど執着されており
服従の呪文をかけられた。

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第二話

母親が嫌いだ

僕を金で売ったから

父親が嫌いだ

僕をモノとして扱うから

レオンハルト！

兄様だけが僕を可愛がってくれた

でもそれでよかった

それがずっと続くと思ってた

なのに

[illegible]様が魔力を発現されたぞ！

ギルバート様より魔力が強い…！

あの日全て壊した

あの日以降兄様と会えなくなった

どうやら全寮制の学園に入学したらしい

代わりに僕は領主としての勉強を強要された

兄様どうして…

僕こんなのやりたくないよ…

いやっ

兄様はこんなこと言わない！

それに約束したじゃないか

僕たちで領地をよりよくするんだって！

そうだ！

兄様に手紙を送ろう！

そうしたら僕も頑張れる！

兄様もきっと―…

―だけど

手紙は一度も

返ってこなかった

どうして…

どうして兄様…

手紙を返してくれないの…？

—そして
入学式の日
兄様を
見つけた
兄様！
パァッ
よかった
無事だった！
会えて
嬉しい！
話したい事が
沢山あるんだ！
そして
一緒に—…

…俺に話しかけんな

オイオイ それはひどいんじゃねーの？

弟くんなんだろー？

ハァ…… 俺はもうあの家とは関係ねーし

関係ないってどういうこと…？

…父様からお前も聞いてるだろ

廃嫡されたってこと

お前ももう俺に関わるな

父様に睨まれるぞ

じゃーな

そんなの聞いてない!!

領地のことは!? 僕たちの夢はどうなるの!? それにそれにっ

手紙!!

手紙…

なんで返してくれなかったの…?

手紙…?

父様から廃嫡するって連絡がきた手紙のことか…?

そんなの燃やして捨てた

—あとから

僕が書いた手紙は

父親が全て捨てていて届いていなかったことを知ったが

そのころには僕はもう壊れてしまっていた

あなたが希望を持たせた

あなたが夢を与えたんだ

だからあなたが隣にいないだなんて

赦さない

似合っているよ兄様
これは服従の呪文
これがある限り僕には逆らえない
これからはずっと一緒だよ
兄様

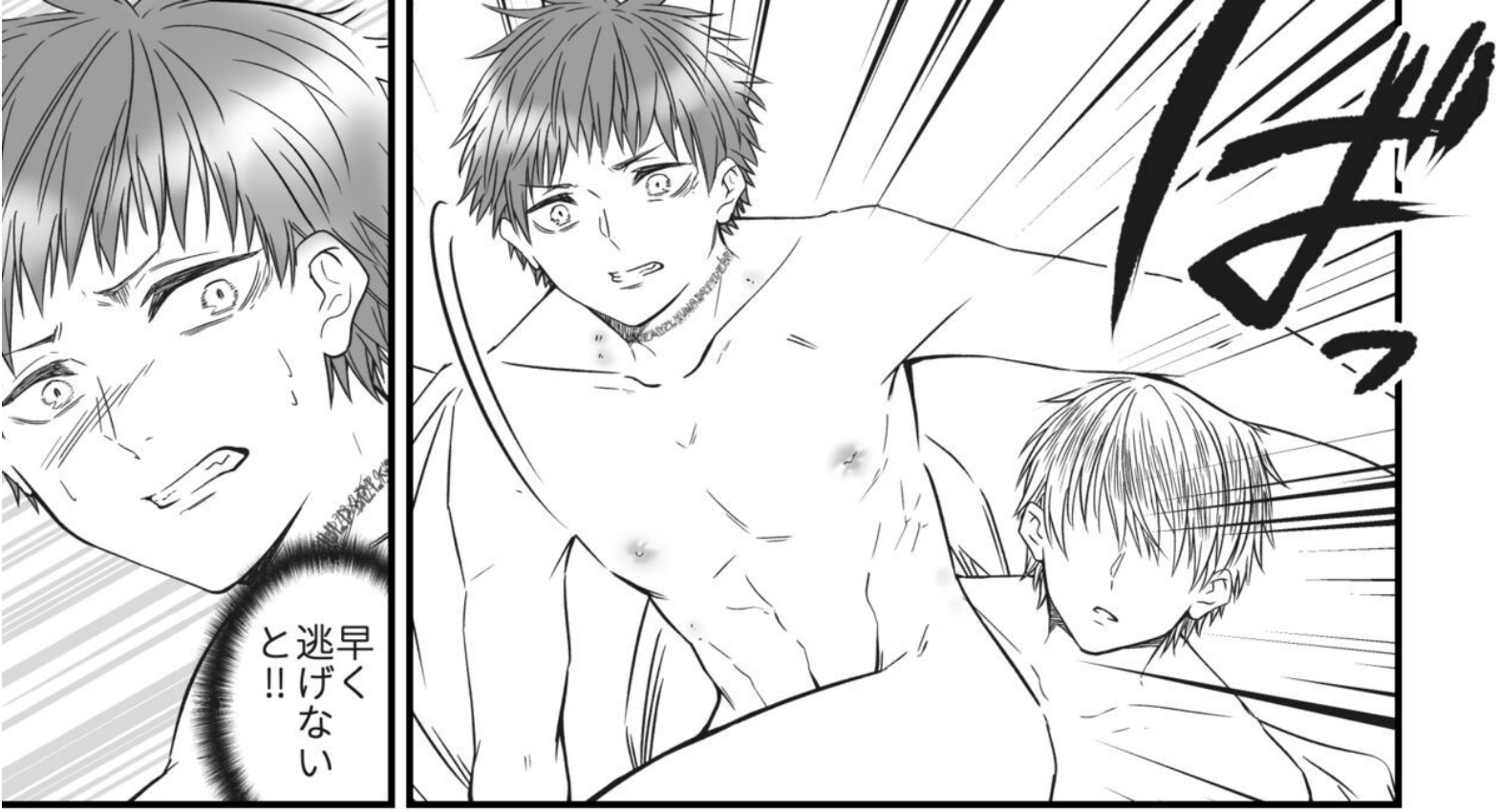
レオンハルト・レッドグレイヴ

Leonhard Redgrave

レッドグレイヴ侯爵家現当主。
妾の子で6歳の時にレッドグレイヴ家の養子となる。
膨大な魔力を保持しており、そのせいで兄から
次期当主の座を奪った。
兄に並々ならぬ執着を持っており服従の呪文をかけた。

魔術の素養が高い弟と
落ちこぼれの兄
第三話

チュン…チュン…
キィ…
ん…
ここは――…
起きた？
兄様
レオンハルト…!?
そうだ…
俺っ…
お前に――…


ばっ
早く逃げないと!!

動くな

ドサッ
やっぱり正解だったな
魔法をかけておいて
魔法…？
っ…！

これは服従の呪文

もう兄様は僕から離れられないよ

禁忌魔法じゃねえか…！

なんでんなことっ…

だって兄様が傍にいないから

ずっと寂しかった

兄様が離れてから

連絡も来なくて

何をしているかも分からなくて

それはっ…

なのにあいつらと楽しそうにしているだなんて

許せない

あなたは
もう
僕だけのものだ

愛しているよ
兄様

…これは
ダメだ

しっかりと
拒絶を
しないと

—だから
眠れ

ムラッ…

なっ…
にを…

意識が
遠のく…

次起きた時は
僕たちの領地
だよ

おやすみ
兄様

ぼっ
ここは…
屋敷の…
俺の部屋…？
本当に戻ってきたのか…
どう？
懐かしの我が家は
気付いた？

俺の部屋残っていたのか
僕が父に頼み込んだからね
…なあ父様はどうなったんだ…？
それに領地の運営は？
ズッ
—兄様は
何もしなくていい
何も知らなくていい
僕の傍にいてくれるだけでいいんだ
だから離れないでね？
"命令"だよ？
—それから

レオンハルトに求められるだけの日々が続いた

人と話すことも

部屋の外へ出ることも叶わずに

…こんなこともうやめろ…

お前は家族愛から来る気持ちを誤解しているんだ

だから…

この気持ちがどこから来るのか関係ない

今あなたを

恋し欲し

愛しているのは紛れもない事実だ

さあ愛し合おう―？

…分かっていたこいつの気持ちは本物だって

あの言葉はこいつに向けて言ったんじゃない

俺に向けて言ったんだ

こいつに愛されて嬉しいと感じている俺がいる

このままじゃ俺は――…

コンコン

…何の音だ…？

コンコンコン

お前ら!?

ヒスイ

Hisui

極東で暮らしている民族の次期頭領。
社会勉強のため16歳の時学園に入学したが
高位貴族とそりが合わず一人で行動していた。
のちに落ちこぼれと言われていたギルバートと
仲良くなる。
意外とすぐに手が出る。

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第四話

お前ら!?

なんでここに…

ぐらっ

ガシャッ

最近寝てばっかだったからな…

ここまで体力が落ちてるとは…

ヨロ…

思ったより元気じゃなさそうだな

ギル大丈夫？

お前らどうしたんだよ!?

お前がいなくなってから俺ら随分探したんだぞ？

ようやく弟君見つけたかと思ったら兄弟そろって領地に帰るとか言い出して…

あれだけ戻る気なかったのにおかしいなと思ってさ

こうして様子を見に来たってわけ！

お前ら…

しっかし何だココ

護衛いるわ魔法張り巡らされているわで

ノエの隠匿魔法がなかったらここまで来れなかったぞ

ここにいちゃいけねえ

早く逃げよう

それにお前…

相手は弟君か？

ギュ…

あー…
悪い
俺ここにいるわ…

ハァ!?
正気かよ!?
このままここにいると死ぬよ!?

ギュ…
でもこのままレオンハルトの傍を離れる事はできない

あいつあんな奴じゃないんだよ
本当はもっと優しい奴なんだ

兄貴である俺がっ…
俺がレオンハルトをなんとかしないと―…

目が覚めたか
ギルバート
状況把握能力だけが取り柄だったお前が
ヒスイ…
自分の状況さえ見えていないようだ
そんな体で何ができる
そんな心で何を説得できる！

いいか!!

これは戦略的一時撤退だ!!

態勢を整え

正常な状態でしっかり考えろ

それでもやらねばならん事があるのならば

その時は俺達も一緒に行く

俺達がお前の手足となろう

…なんて頼もしい仲間たちなんだ…

おかげで目が覚めたよ

でもやっぱりレオンハルトとはぶつかんなきゃならねえ

だから手を貸してくれるか

お前達!!

ああ!

じゃあこれからどうするかだけどー…

あーそれなんだけどさ

ハイ

つーかいい加減服着ろよ

おキース悪いな

俺服従の呪文かけられているんだ

これがある限りレオンハルトの傍から離れられない

うへぇ…

禁忌呪文じゃんかよ…

…僕なんとかできるかも

本当かノエ！

ノエん家そういうの研究してんだっけか

でも服従の呪文を解くには時間がかかるんだ

だから"身代わり"を作って時間を稼ぐ

身代わり？

ゴーレム（コレ）を使ってね

土の精霊よ
その身を形作れ！
ニュウウウ…

それで

これからどうするんだ？

屋敷の外に馬車を用意してある

それを使って俺の故郷に逃げる予定だ

逃げている時に服従の呪文を解くつもりだよ

悪いなノエ

服従の呪文が解けたら

レオンハルトども！…

な…んだコレッ…

息がっ…

ギル！

そんなっ…

服従の呪文が発動してる…!?

兄様を奪ったのは誰だ

ジャリッ…

ゴロゴロ

嘘だろ天候がっ…

ゴロゴロ…

もう天変地異だよ…！

ガッ

貴様らの仕業だな？

兄様を

返してもらおうか

ノエ・ウィザース
Noe Withers

ウィザース伯爵家の次男。
魔術を探求している一族であり様々な魔術を知っている。
禁忌魔術なども研究している為、他の貴族からは嫌煙されていた。
ギルバートとは16歳の時に友達になる。

キース・エクルストン
Keith Eccleston

王国で有力な商会であるエクルストン商会の三男。
ギルバートとは学園初等部からの悪友で先生たちを困らせてきた。
最近男爵の爵位をお金で買った。

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第五話

そんなっ…

身代わりを用意したのになんでっ…

身代わり…？

パラ…

ああ

あの人形のこと？

ゲッ

僕が兄様を間違えるわけないだろう

貴様らは兄様を誑かしただけでなく

偽物まで作った大罪人だ

全員死ね

ガキィン

ガオッ

風の精霊よ

この身を守れ！

ノエ!!

このまま簡単に逃がしてはくれなさそうだな…！

オイ

このままだと俺のせいで皆が…！

俺を犠牲にしてでも皆を！…

言っただろう

俺達がお前の手足になると

それが“今”なんじゃない？

お前一人で戦わせねぇよ

お前ら…

落ちこぼれの俺とエリートの弟…ただでさえ差があるのに

服従の呪文で体が悲鳴を上げている…

勝算なんて無いに等しい

でも

ギリッ

今立ち向かわなきゃ

勝つことは一生できない!!

お前ら！全力でレオンハルトを叩きのめすぞ!!

了解!!

おしおきが必要だね

兄様

ゴロゴロ…
ギルバートどうする
ゴロ…
いつも通り指示をくれ
レオンハルトの火力と真っ向勝負しても負ける…
意表をつく作戦は…!
合同訓練の時の作戦だ!!
ヒスイ!
わかった
ノエ!
うん
キース!俺らで前線張るぞ!
へばんなよギル!

ノエが強化魔法をかけ続ける間に俺達が護る

そして最後にヒスイが―…

とにかく今はレオンハルトを引き付けなければ

キース同時に行くぞ！

水の精霊よ！

風の精霊よ！

ビクともしねーのかよ！

怯むな！攻撃を続けるんだ！

ズキンッ

やっぱり攻撃すると服従の呪文が反応するか…

ズキッ

けれどレオンハルトに勝つ為ならいくらでも我慢してやる!!

水の精霊よ！

—ああ

鬱陶しい

ノエ!!

キース!!

しっかりしろ!!

おい!!

遊びは終わりだよ

兄様

さあ
帰ろう？
僕と一緒に

もう一人
忘れてんぞ

そうこっちはおとり
本命は…！

ズシャア
ア ア
やったか!?

ヨロ…
ダッ
チッ
気絶してないのか！
次来るぞ！

どうして…
どうして邪魔をする…
ズ…
僕は兄様と…
一緒にいたいだけなのに…
ズズ…

何あの魔力…!?
あんなの見たことない…!!
このままじゃ皆やられてしまう!!
レオンハルトを倒すには―…
これだ!!
ばっ
キース借りるぞ!!
雷の精霊よ！
かの金属に光を纏え！
ビリッ

雷を纏った金属は
天空の雷との道をつくり
落雷を呼び寄せる!!

ドサ…

フラ…

うおおおっ

すげーじゃんギル!!

よく倒した!!

俺が…倒したのか…?

"あの"レオンハルトを――…

ギルッ!!

術者が弱ってる今なら服従の呪文解けると思う!!

本当か…!?

ジャリ…

早く解いて逃げよう!!

行かないで…

兄さまっ…

俺は…

俺は――…？

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄の話

第六話

ずっと

レオンハルトに対する気持ちが分からなかった

閉じ込められて愛されていた時は

満たされていたけど空しくて

立ち向かった今は

清々すると思ったのにこんなにも苦しくて

俺はレオンハルトにあんな苦しい顔をさせたいわけじゃないんだ

俺が望んでいるのは――…

兄さまっ！

――ああそうか

俺は――…

早く服従の呪文を――…
…ちょっと待ってくれないか？
レオンハルトと話をつけてくる
何馬鹿な事言っている！
ガッ
あんな奴見捨てるべきだ!!
ありがとなヒスイ
でも決めたから
お前は人が良すぎる…！
ギュッ
ジャリ…
兄さまぁっ…

ナグッ

えっ

兄様っ

待って！

ゴッ

やめて！

パシッ

ガッ

止まって!!

このままじゃっ

服従の呪文で兄様が傷つく!!

こんなんで俺を縛れると思ったら

大間違いなんだよ!!

俺は何度でも立ち向かってやるからな!!

じゃあどうしたら…

どうしたら僕のそばに居てくれるの…?

そんなの…

服従の呪文なんかなくたって

俺はお前のそばにいるよ

…嘘だ

嘘じゃねぇよ

だって逃げたくせにっ！

僕をっ避け続けていたくせにっ!!

それは…自分の気持ちが分からなかったから――…

いやこれは言い訳だな

俺さ

お前に嫉妬してたんだ

え…!?

才能あるお前と落ちこぼれの俺…

勝手に比較して嫉妬して

そんな自分が情けなくて避け続けていた…

だからお前に求められた時嬉しかったんだ

俺の歪んだ部分が満たされたような気がした

—でもそれは違う

ガッ

俺は男として

お前に認められたいんだ

護られるだけじゃない

一緒に悩んで迷って笑いあえるような

そんな支えあえる仲でありたい

愛しているよ

レオンハルト

こんな情けない兄貴だけど

一緒にいてくれるか？

ずっと一緒にいてっ…

死ぬまでずっと――

見てるこっちがはずかしーわ

—お前ら
いろいろと迷惑かけてすまなかったな
俺達もう大丈夫だから

あそこまで見せつけられたらなあ
何かあったら呼べすぐ駆けつける
落ち着いたらまた遊びに来るね

結婚式には呼んでくれよ～
キースてめえ!!
必ず呼びます
いや無理だからな!?

さて
じゃーなー
ガラガラ…

やることはいっぱいあるな
屋敷のこと領地のこと――…

兄様ごめん…
いろいろ勝手な事…
ハァ〜ッ
一人で背負い込むなって言ってんだろ

”俺達でこの領地をより良くする”んだからな！
うんっ

兄様

だって傍にいてくれるんでしょう？

—ああ

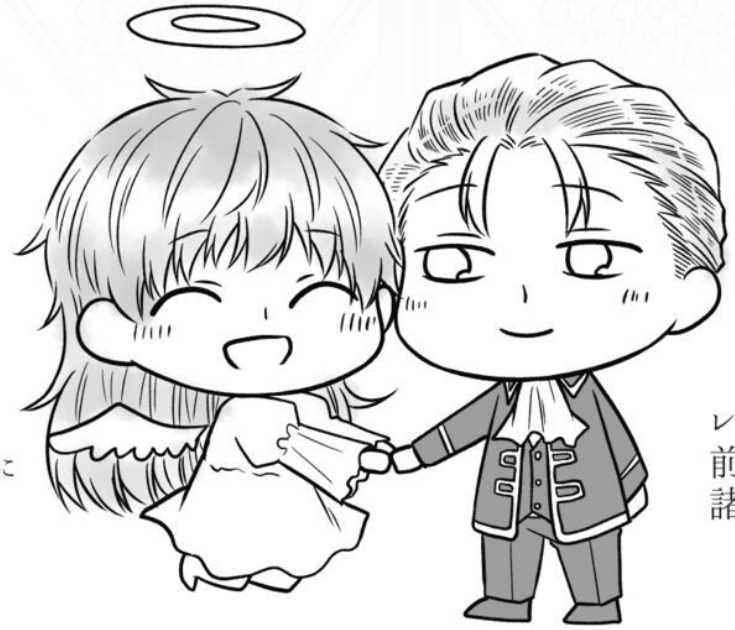
傍にいるよ

死ぬまでずっと—…

兄様ああああっぎゅっ
ここにいるから
兄様ああああああっ

ギルバートの母

故人。
ギルバート9歳の時に
亡くなる。



父

レッドグレイヴ家の
前当主。
諸事情により隠居。

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第七話

あれから兄様は家に残り

領主の補佐として侯爵家を支えてくれることになった

廃嫡されたからって最初は渋っていたけれど

仕事をする姿はとても楽しそうだ

僕と一緒に歩む道を選んでくれて本当に良かった

そんな中困っていることが一つだけある

それは――…

やっほー

兄様の友人がよく尋ねに来るということだ

遊びに来たぜギルバート！

特にこいつ

こんおみやげ

いつもありがとな！

それ以上兄様に近づくな

まあ彼らも仕事のついでに来ていることは理解している

ハァ…

ノエ・ウィザーズは一族で研究した魔術道具を

ヒスイは故郷の特殊な薬草や工芸品を

キース・エクルストンはそれら商品を商会へ卸す為に

彼らのおかげもあって

僕らの領地は王都と並ぶ商業都市として発展しつつある

そしてその立役者の兄様は

レッドグレイヴ家を裏から牛耳る黒幕だと

人々から恐れられている

まあ噂流したの僕だけど

兄様の素晴らしさに恐れ戦くがいい

ニコニコ

ニコニコ

ゴーンゴーン

はっ!!

もう遅い時間なので皆様お帰りください

えー…

早くない?

泊まらせろ

ぐいぐい

なあ
レオンハルト…

この部屋
母様の…
侯爵夫人の
部屋だよな？

俺が
使うのは…
周りの目が…

何を今更

屋敷の皆
僕達の関係に
気づいているし

この部屋を
使っていいのは
兄様だけだから

—嬉しいよ

たとえ今だけだとしても

え？

さあそろそろ寝るぞ！

明日も仕事は山積みだし！

うん！

ああ

幸せだな

ひっ!?

お前っ！昨日もヤっただろ!!

ダメ…？

そんな子犬みたいな目しても駄目だ!!

魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄

第八話

あれから数か月が経ち――…

俺は今領主（レオンハルト）の補佐として働いている

父様は体調が優れず隠居したそうだ

会ってくれるかわからないけど

落ち着いたら会いに行ってみたいと思う

…ん？

ヒラ…

ライラックの花びらか…

もうそんな季節なんだね

兄様

ぐいっ

僕兄様がいてくれて幸せだよ

…俺もだ

ブンブンブン

旦那様フォード伯爵がご到着されました

分かった！

ばっ

チッ

久しぶりだね！
ギルバートにレオンハルト！

お久しぶりですフォード卿

敬語なんていらないよ

前みたいにおじさんって呼んでくれ

フォード伯爵は父様の弟、つまりは俺たちの叔父さんだ

フォード伯爵家に婿入りして領地を治めている

そうだ この子も紹介しないといけないね

私の四男アルバートだ

初めまして

アルバート・フォードと申します

プラチナブロンドに紫の瞳…

レッドグレイヴ家の血が濃く表れている…

この子の魔術の素養は相当高いだろう…

ギルバートだよろしくな

よろしくお願いいたします

ギルバート様

はは

様なんて堅苦しいよ兄と呼んでも――…

ギルバート様

ギルバート様と呼べ

兄様と呼ぶは僕だけ

心が狭すぎるぞレオンハルト…ギ

それで叔父様は何でこの子も連れてきたんだ？

それは…

バァーン

やあやあ諸君！

突然の訪問すまないね！

レオンハルトはいるかな？

何でこんなところに!?

ばっ

約束なんてしてなかったよな!?

白銀の髪に

赤い瞳

王家の色を纏ったこの方は――…

ハーヴィー・ウィル・アウスソニア王太子殿下!!

ああ全員面を上げていいぞ

来訪の連絡は受けていないのですが…

そもそも護衛は？

転送魔法使って一人で来た！

バァァァァッ

王太子の自覚持って下さい

そうか…レオンハルトと王太子殿下はご学友だったな…

で？何しに来たんです？

このような吉報私が直々に報告せねばと思ってな

喜べ！
我が妹の婚約者として
レッドグレイヴ侯爵が
選ばれたぞ!!

は…!?

レオンハルトが
婚約―…？

昨今の
レッドグレイヴ領の
隆盛には目を見張る
ものがある

陛下はレッドグレイヴ家と
縁を結び、国家の安定を
盤石にしたいとの考えだ

そんな
打診受けて
いませんが!?

驚かせようと
思ってな

貴様に秘密で
根回しするのは
大変だったん
だぞ？

正式な手続きは一週間後
王城にて執り行う！
では待っているぞ！
チッ
最っ悪だ！
叔父様それにアルバート
急ぎ対処しないと！
僕が転送魔法使うので一緒に王都へ！
レオンハルト…
兄様
大丈夫
僕が絶対どうにかするから

だから待ってて

どうにかするって…

無理だろ…

だって王家からの勅命だ…

レオンハルトの婚約…

いつかこの日が来ると覚悟していた

でもこんなにも早く

こんな最悪な形で来るなんて

まだ一緒にいたいよ

レオンハルト…

あれから数日が経った

レオンハルトはまだ帰ってこない

俺は代理で領主の仕事をこなしていた

コンコン

！

浮かない顔をしているな

ヒスイ…

何かあったか？相談に乗るぞ

…ありがとう

…へぇ
あの弟が王女様の婚約者になるとはな

王女様は何歳だ？

十四歳だ
年齢差もあまりなくて相手としては申し分のないお方だ

…ギルバートはそれでいいのか

いいわけないだろ

ふざけんなよ何が勅命だ…

レオンハルトは俺のだ
誰にも渡したくない…！

傍にいるって約束したのに…！

…でもどうにもならないことも分かってる

王の勅命に逆らえば死罪だ

それにさずっと思っていたんだ

カチャ…

こんな落ちこぼれの俺なんかにレオンハルトを縛り付けていいのかって

王女殿下なら優秀なあいつにお似合いだ

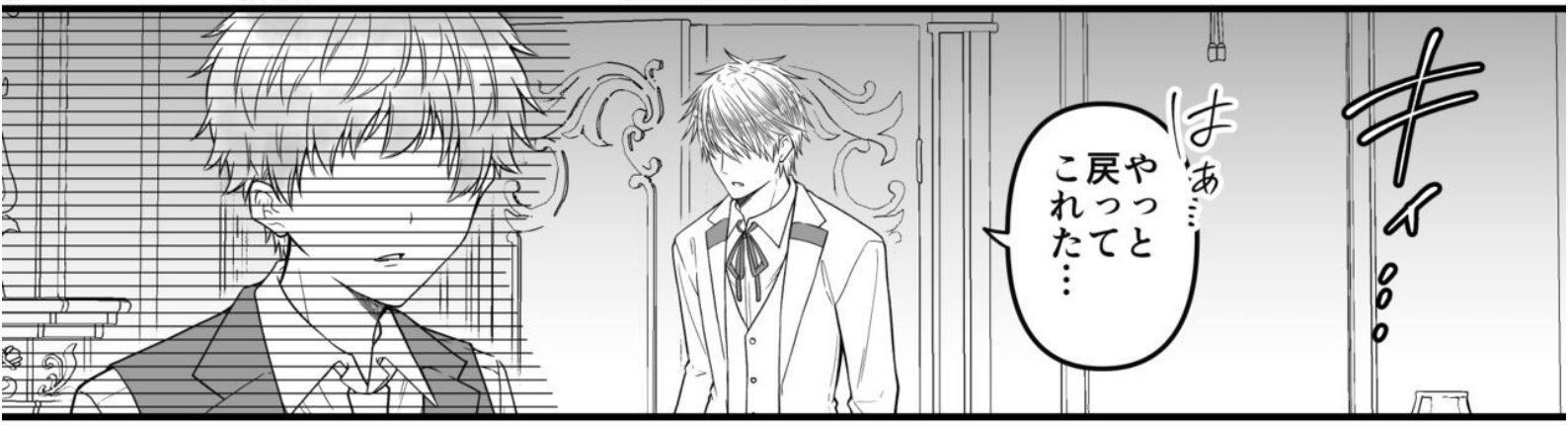
ちゃんと兄としてお祝いしてやらなくちゃな

しんどくなったら俺の故郷に来い

…いつもありがとなヒスイ

あの宣告から
明日で一週間

夜が明けたら
レオンハルトは
王女殿下のものに
なる



兄様…？
明日からは兄に戻るから
今日までは
お前の一番で
いさせて
抱いてくれ
レオンハルト

兄様…

ぼっ

ちゅ

ちゅっ

はぁっ

嬉しいな兄様が誘ってくれるなんて

…今日で最後だから

ナレーション

レオンハルト

今日は俺が全部やるから

え…？

全部って兄様っ

ちゅっ

ぜクッ

今まで一度も…！

ぐちっ

兄様!?

ちゅ

ぜクッ

ちゅ

ぜクッ

はーい♡

んふっ♡

ちゅぱ

ごめん

もうっ…

これ以上はおあずけな？

ひゃい…

出すなら

俺のナカに出してくれ…♡

兄様いきなりはっ…

だいじょーぶほぐしたからっ…

ぐちっ

にちちっ

んあぁっ♡

ぐちゅんっ

ぜクッ

ぜクッ

…感じる

レオンハルトのあたたかみ

俺のナカにたしかにある

今日までは

兄様…？

俺がお前の一番だ

えへへ…

ビクッ

ビクッ

あぁっ♡

これ以上耐えられない

覚悟してよね兄様

兄様
おっ♡
兄様っ
あ♡
愛してる
…俺もだよ
お前が一番大切で
誰よりも幸せになってほしい存在なんだ
だから

幸せになれよ
レオンハルト

兄様

兄様起きて

ん…？

早く準備しないと遅れちゃう

準備…
ああそうか
今日が
王女様との
婚約の日か…

笑顔で
見送って
やるんだ

俺なんかに
遠慮しないで
いいように

ああクソ
声が震える

兄に戻るって
決めただろ

笑え

笑え

笑えっ…

王女様と
仲良くな…

ちゅっ

何すんだよ…

兄様があまりにもかわいくってつい

それで昨日様子がおかしかったんだね

僕がどうにかするって言ったのに

さあ兄様も来て

絶対大丈夫だから

俺なんかが王城にっ…

大丈夫だから

叔父様とアルバート？

なんでここに―…

待たせたな！

手続きを進めようではないか

だめだ耐えろ

ハーヴィー王太子殿下とリリー王女殿下…

笑って見送るって決めたじゃないか

この婚約ですが―…

侯爵家次期当主
アルバート・レッドグレイヴがお受けします

へ…？

おや？レオンハルトではないのかい？

私の母親は下女です

王族の高貴な血と交わるわけにはいきません

その点アルバートは伯爵家と侯爵家の血を引きます

養子に迎え入れた今

王女殿下に釣り合う人物は彼以外にいないでしょう

そうなると…

不要な後継者争いを避けるために
貴様は今後子を持てなくなるが…
承知の上です
それでもいいのかい？

而してアルバートよ
貴様は野心の為にリリーを利用してはいまいな？
僭越ながら王太子殿下

王女殿下にお目通りお茶会の時叶ったのは
その朗らかな笑顔に一目で恋に落ちました
しかし今の身分では釣り合わない…
ですので侯爵家の養子になることを決意しました
全ては愛する王女殿下の為に

ふむ
私は「いつの」レッドグレイヴ侯爵とは言わなかったからな

ハーヴィー・ウィル アウスソニアの名において

リリー・ホワイト・アウスソニアと

アルバート・レッドグレイヴの婚約を認めよう！

アルバート！

リリー様っ

えぇ…？
俺何も知らなかったんだけど…？

一週間前兄様にも養子のことを伝えるつもりだったんだ

殿下がめちゃくちゃにしちゃったけど

それにね兄様

僕の幸せは兄様がいないと成り立たないから

兄様が僕の側から離れるって言うのなら僕は兄様に服従の呪文をまたかけて今度は逃げられない棟に幽閉して僕だけしか見ないように調教して

ゴゴゴゴ

ゴゴ

ゴゴゴッ

冗談だよな…？

パパパ

手続きも完了した！

軽食を用意したから皆で祝おうではないか！

兄様っ

早く行こう？

ああっ

大団円って感じかな？

殿下が余計な事しなければ丸く収まったのですが

養子の手続きに有力貴族への挨拶に大変だったんですよ

ははは

学園では澄ましていた貴様が焦る様子は面白かったぞ！

けれどこれで皆が幸せになっただろう？

好きな者同士が婚約者になり

僕達は結婚しなくていい建前ができ

殿下はレッドグレイヴ家という後ろ盾を得た――…

そうそう

貴様の兄はあの辺境の一族と仲が良いのだとか

私も懇意にしたいものだな

…本当に恐ろしいお方だ

必ず手配致しましょう……

恐ろしいか…

私は貴様の変わりようが恐ろしいがな

私も恋を知れば変わるのだろうか…

できればしてみたいものだな

人生が変わる恋というものを

ハーヴィー・ウィル・アウスソニア
Harvey Will Aucsonia

アウスソニア王国の王太子。
レオンハルトとは学園の時に生徒会を通じて
友人になった。
魔力が豊富で頭もよく、王太子として期待されているが
放浪癖があり護衛はいつも悩まされている。

兄様の
お母様は
とても心が
優しい人だった

あの男(ちちおや)と
結婚しなければ
もっと幸せな人生を
送れただろう

お母様の面影を
兄様に感じるたび
僕は恐ろしくなる

あの男(ちちおや)と
同じことを
しているのでは
ないかと

兄様の幸せを
奪っているのでは
ないのかと――…

あはは
でさ〜
イラ
イラ
そうなのか
イラ
イラ
貴様いつまでいるんだ
ふっ
友人との再開に水を差すとは狭量だな
このっ！
ガッ
まぁまぁ
すまない急用を思い出した
今日はこれにて
そっち窓だぞ？

やあやあ！
久しいな諸君!!
おや？
ヒスイはいないのかい？
先ほど帰りましたが…
声がした気がしたが
というか今回は何です？
ぐぃっ
我が妹とアルバートの婚約を発表するため
お茶会を開くことにした！
二人とも是非参加してほしい！
えぇぇっ!?
でも俺デビュタントしてないし…
ポンッ
これは王命だ♡
ではよろしく！
はははは！
はぁ…行くしかないようだね…

お茶会の日
王城……

ザワ
ザワ

場違い感がすごいな…

あの方レッドグレイヴ家の…
あの噂の…
あの噂って何だ!?
失礼

レッドグレイヴ家のギルバート様ですか？
あっ
はい…

ザッ
私はハンズ伯爵家の…
貴様

まずは当主の私を通すべきではないか？

失礼しました!!

全く油断も隙もない…

兄様大丈夫だった？

レオンハルト…

父様みたいな立派な侯爵になったな…

やめて本当誉め言葉じゃないから

ジーン…

ザワッ

王太子殿下

王女殿下のご到着です

やあやあ
ごきげんよう
諸君！

この度
我が妹と
アルバート・
レッドグレイヴが
婚約することに
なった！

どうか二人を
見守ってほしい！

パチ
パチ

あっ

無事発表も終わりか

二人が幸せそうで良かったよ

…兄様は今…幸せ？

…え？

兄様から次期当主という立場を奪って

子供まで望めない状況にしてしまった…

ギュッ

兄様の幸せを奪っているのかもしれないと思うと

恐ろしくて仕方ないんだ

俺さ
レオンハルトが来るまでどこか人生諦めていたんだ

才能がないから家族に捨てられたって
幼い頃に描いた未来も諦めないといけないって

でもレオンハルトが来てから
全てが変わった

領地の為に働くって夢も
愛がほしいっていう願いも

全部ぜんぶレオンハルトが叶えてくれた

俺幸せだよ
レオンハルトと一緒にいる今が一番幸せ
…僕も今が一番幸せ
なら何も問題ないな

城の貴賓室でこんなことやっていいのか…？

このくらいいいでしょ

殿下が用意した部屋なんだから

今日は兄様の気持ち

知れて嬉しかったから

ドクッ

れろっ

ドクン

あっ!!♡

たっぷり可愛がってあげるね♡

じゅぽっ
じゅぽっ
ん
きたなっ…
あぁ
ぐちゅぐちゅ
かわいい
かわいい
ぼくの
にいさま
ぴくっ
ぴくっ
おっ
あっ
これからも
ずっと
いっしょ
だよ♡
ぱぁ
ぱぁ
まって、
あ

ぐちゅ
ぐちゅ
んあああああ♡
ビクッ
ビクッ
ビクッ
兄様
好き
大好き
あぁ♡
あぁ♡
しー

ゆっ
おれも…
すき…
兄様っ
ビクッ
んっ
ビクッ
あっ
レオン
ハルトっ…
ガリッ
うんっ
一緒に

ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
なあ
レオン
ハルト
なあに？
兄様

アルバート達が大きくなって領地を任せられるようになったら

旅に出ないか？

外国にはすごい技術がいっぱいあると思うんだ

俺はそれを見つけてもっと領地をよりよくしたい

それはとても楽しそうだ

一度は諦めた未来

だけど今はその未来を歩んでいる

これからもこの道を歩んでいこうと思う

兄様

愛する弟とともに

Our journeys will continue...

あとがき

今回は「魔術の素養が高い弟と落ちこぼれの兄」を
手に取っていただき誠にありがとうございます。
作者のもうのです。

この話はもともと最初の一話だけで終わらせるつもりでした。
しかし続きを見たいとのお声をいただきましたので、
続きを描くことにしました。
正直ここまで長くなるとは思っていなかったです。
ここまで描けたのも、お声をかけてくださった方々の
おかげだと思っています。本当にありがとうございます。

かなり昔から描いており、最初と最後では絵がだいぶ違っています。
そこも楽しんでいただければと思います。
お話はここでいったん終わりですが、
レオンハルトとギルバートの旅はこれからも続きますので
暖かく見守っていただけると嬉しいです。

このお話以外にも様々な話をピクシブやツイッターにて
アップしていますので遊びに来ていただけると嬉しいです。
ぜひぜひよろしくお願いいたします。

発行日：2023/04/02
発行者：もうの
連絡先：mouno0051@gmail.com
ツイッター：@moooooouno_n
印刷：株式会社栄光 様